

心の窓



校訓：かしこく やさしく あかるく つよく

令和3年12月24日(金)

南関町立南関第四小学校 学校だより

No.34

文責：松永 尚子

後期前半もお世話になりました。

10月12日(火)から始まった後期でしたが、学校に登校する日が53日でした。保護者の皆様にはたいへんお世話になりました。特に、後期前半は修学旅行をはじめ、集団宿泊教室や見学旅行、また、体験学習など、子どもたちが学校外に出かける活動も多くありました。また、持久走大会も実施できました。子どもたちの心に残る行事を実施することができ、本当によかったと思っています。コロナ対策、体調管理等、ご家庭で気をつかわれることも多かったことと思います。また、四小まつりやPTA再生資源回収なども、子どもたちのためにご支援・ご協力いただき、心から感謝申し上げます。

「一年の計は元旦にあり」という言葉があります。「一年のことは年の初めの元旦に計画を立てて行くべきである。物事は初めが大事、しかもしっかりした計画のもと着実に進めよう」ということだそうです。ぜひ、お子様と一緒に、新しい年を迎えるに当たって、「この1年をどんな年にしたいか」など、話し合ってみていただければと思います。そして17日間の冬休み後、ちょっぴり成長した子どもたちと、また、一緒に頑張っていきたいと思います。来年も、どうぞよろしくお願いいたします。



一步一步、卒業が近づいてくるんですね。

20日(月)の5・6時間目、6年生は「陶芸教室」がありました。卒業記念の制作をしています。講師には、素月窯の松永さま、岱平窯の坂井さまがいらっしゃいました。6年生13名は、昨年の6年生が作った作品の写真を参考に、自分が作りたい物を決め、作り始めました。陶器に使う、あのさらさらとした土の感触。また、講師の方は、ちょっと机の上でまわしたら細長い棒のようになるのに、自分でするとそうはいかない感覚。楽しみながら、取り組んでいました。一人一人が、これまでの小学校生活を振り返りながら、一心に土に向き合う姿。一步一步卒業が近づいてくるなあと感じた時間でした。陶芸教室はあと2時間おこなって、飾り付けをしてから焼くそうです。楽しみです。



理科(3年生) 研究授業を行いました。

12月17日(金)、西崎教諭が3年生理科「電気の通り道」の研究授業を行いました。この単元は、「電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があること、電気を通す物と通さない物があることを理解し、電気の回路について考えたり説明したりする」ことをめざして学習します。最終的には、「スイッチのついている豆電球のおもちゃをつくりたい」という課題を設定し、いろいろな物について電気を通すかどうかの実験をして、どんな物が電気を通すのか考えました。



この授業に入る前の時間に、子どもたちは、どんな物が電気を通すのかタブレットに予想をしていました。実験は、短い時間の設定でしたが、班のみんなと協力して、てきぱきと活動することができました。予想に対して検証するので、目的を理解した実験をしていました。また、実験からどんな物が電気を通すのかについても、タブレットを活用してまとめることができました。アルミ、鉄、銅などの金属が電気を通すというまとめを導き出していました。

授業研究会では、南関町学校教育専門指導員の寺田先生から、「課題解決型で細かいところまでしっかり考えられた授業だった。タブレットでは、先生自作の発表ノートも活用されていた。また、前時の振り返り、「？」箱を使った学習意欲づけ、二つ目の学習課題など、よく考えられ、子どもたちがしっかり学んだ授業だった」と講評をいただきました。

今年度、「一人一回研究授業を」という計画で取り組んできました。子どもの「なぜ？」や「不思議だ」を大切に、自分の考えたことを友だちと交流し、「なるほど」「できた」「わかった」が生まれる授業へと改善できるよう、校内研修でさらに研究を進めていきたいと思っています。子どもたちが「学びの主体」となる授業に向けて頑張ります。